



アンネのバラ

吉高人権だより

2023年 12月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「自分のことが好き」

機械建築工学科 植木 文秀

皆さん、人権・同和教育ホームルーム活動で使用する「人間の輪」の最初に取り扱う内容を知っていますか？それは、「自分のことが好き」です。私は担任をしていたころ、いつもこの主題で授業を行っていました。しかし、「自分のことが好き」と呼び掛けて、自分が好きじゃない人が「そうだな」と思って自分を好きになるか疑問でした。そこで、私なりに「自分のことが好き」を考えました。

「自分のことが好き」な人は、周囲から認められている人が多いです。周囲から認められるには、人より努力したり、他の人よりも能力が高いことが思いつきます。ちなみに私は、上記に記載したような、人より頑張っている、能力があるとは全く思いません。

その他には、自分の存在を認めてくれる場所があること。仲のいい友達、自分のことを心配してくれる家族がいるなどです。仲がいい友人にはあまり気を遣わず接することができます。それは自分をさらしても、自分の個性を認めてくれる空間があるからではないでしょうか。家族も同様です。日常で嫌なことがあると、家族に愚痴をぶちまけていませんか。でも、それができるのは、家族から嫌われない、必ず自分の存在を認めてくれる証ではないでしょうか。そのような環境がある人は、「自分のことが好き」な人が多いように思えます。

しかし、そのような友人関係の環境がない人もいます。では、そのような環境を作るためにはどうすればよいか。私の人生経験で考えた答えは、「相手の良いところを見つけ、それを認め、相手に伝える」ことです。

人はなぜか不甲斐ない行動や結果が出たとき、自分と同じ境遇の人を探してしまいます。期末考査の結果が悪いとき自分と同じかそれ以下の人を探しませんか？私は無意識に探してしまいます。人は無意識にそのような行動を取ってしまいがちです。それを意図的に「相手の良いところを見つけ、それを認め、相手に伝える」ことを続けてみてください。あなたのことを認めてくれる人が不思議と増えます。体力も学力も必要ない。これが私の考えた「自分のことが好き」になる方法です。皆さんはどう思いますか。

【人権・同和教育講演会】



11月24日（金）、旧三間町出身の元自衛官で、NPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会代表の高山良二さんを講師にお招きして人権・同和教育講演会が開かれました。

高山さんは、自衛官としてカンボジアのPKO活動に参加され、地雷撤去の活動をしていましたが、自衛隊退官後もNPO法人を設立してカンボジアでの地雷撤去の活動を続けてこられました。また、高山さんは地雷撤去だけでは、村の人々が自立した生活を送ることができないということで、井戸の整備や農業機械の援助、学校の設立、村で育てられたキャッサバを原料にした焼酎を製造して特産品をつくるなど地域の自立支援に貢献され、現地では親しみをこめて「ター（おじいさん）」とよばれています。

講演ではカンボジアの現地とビデオ通話がつながらないトラブルがありましたが、高山さんの人柄もあり、大変なことをさりげなく行っていることが伝わる講演会でした。

【人権集会】



12月8日（金）、人権集会が開催されました。今回は、人権委員会の2年生が「わたしたちにできること」という題でハンセン病の問題について発表をしました。

日本では以前から「らい病」として知られてきましたが、明治になってから諸外国からハンセン病患者を放置しているとの批判を受け、ハンセン病患者を隔離する法律を作り隔離を進めた結果、ハンセン病は感染力が強いという偏見が広まりました。1996年に「らい予防法」は廃止されましたが、ハンセン病について正しい知識を持ち、偏見や差別を無くしていきたいものです。